

# さやえんどう

ビタミンC・食物繊維もたっぷり。  
豆の部分には、ビタミンB1・ビタミンB2・タンパク質も含まれ、疲労回復や美肌効果も期待できます。

## 11月の農作業

### 作型

寒さには強いが、生長するにつれて耐寒性がなくなってくる。厳寒期を迎える前に敷きわらをすると共に、北側を土寄せして風よけをする。

春の生長が盛んな時期には、月に1回追肥すると草勢が維持でき、収穫期間を長くすることができる。

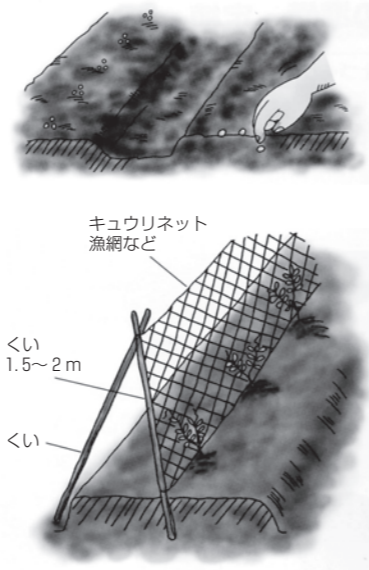
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
普通栽培					■	■	■			○	○		さや取り(成駒・白花兵庫絹さや・赤花絹さや)

○：種まき ■：収穫

### 畑の準備・定植

土づくり aあたり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	20kg
BMようりん	2kg
植え付け1ヵ月前に土とよく混合	
元肥 aあたり	
油粕	10kg
畝立時施用	

- 1条植え：畝幅120cm 株間40cm
- 1カ所2～3粒まきとし、薄く(2cm)覆土する。
- 種子を20℃の水に2～3時間浸し、十分水分を与えてから播種すると発芽しやすい。



### 間引き

- 草丈が7～8cm位になったら1カ所2本立てにする。
- 間引き後、保温のために敷きわらをする。北側を土寄せして風よけを作る。

### 整枝・土入れ

- 巻きひげが発生するようになったら、つるがからみやすくするためにキュウリネット、魚網等を張る。
- 枝が混んで来たら、茎葉に十分光が当たるようにふところの枝を整理する。

### 追肥・土寄せ

- 3月中旬：野菜専用肥料4kg/aを施用後、軽く土寄せを行う。

### 防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
うどんこ病	風通しを良くする	トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 前日まで5回以内
アブラムシ	光反射テープを畝上に張る	スミチオン乳剤 1,000～2,000倍 21日前まで4回以内
ハモグリバエ		エルサン乳剤 1,000～1,500倍 28日前まで1回以内

### 収穫

さやが平らで、外から子実の形があまりはっきりわからないうちに収穫する。



裏面は来年度に向けての水稻栽培を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.271 平成25年11月13日発行

# 来年度に向けての 水稻栽培

## 11月の農作業

### 25年度 米づくりを振り返って

平成25年度産水稻作況指数(25.10.15.発表)は全国で102、兵庫県(県南)で100となり、平年並みという結果になりました。

JAハリマ管内の米の出荷量は10月末現在で17,290袋の出荷となっています。

今年は夏の高温や、収穫時期の長雨による刈取時期の遅れがあり、米づくりには非常に厳しい年になり、米検査の結果は1等米が13,561袋で1等米比率は78.4%になりました。(前年90.8%)

特に営業部別に比較すると、一宮(営)の管内で1等米比率が低く、75%を下回る結果となりました。みかた、波賀、ちくさ(営)では1等米比率が80%前後と高くなっています。これは地域の気温に起因していると思われ、比較的冷涼な地域で良い等級となっています。このことから、特に気温の高い一宮(営)においては田植時期を遅らせる等の対策が必要です。

等級低下の原因としては乳白米(米が白く濁る)の発生が最も多く、心白(中心が白い)や基部未熟(先端が白い)が多くみられました。この傾向は一宮(営)でより顕著に表れています。

これら米が白く濁る乳白米は、出穂時期から成熟期(7月下旬～8月中旬)までの期間が高温であることが挙げられます。出穂時期の気温(特に夜温)が下がらないと、穂が充実する前に熟れてしまうことで、発生します。対策として、田植え時期を遅らせたり、出穂時期の夜間に水をかけ流しする等の方法があります。

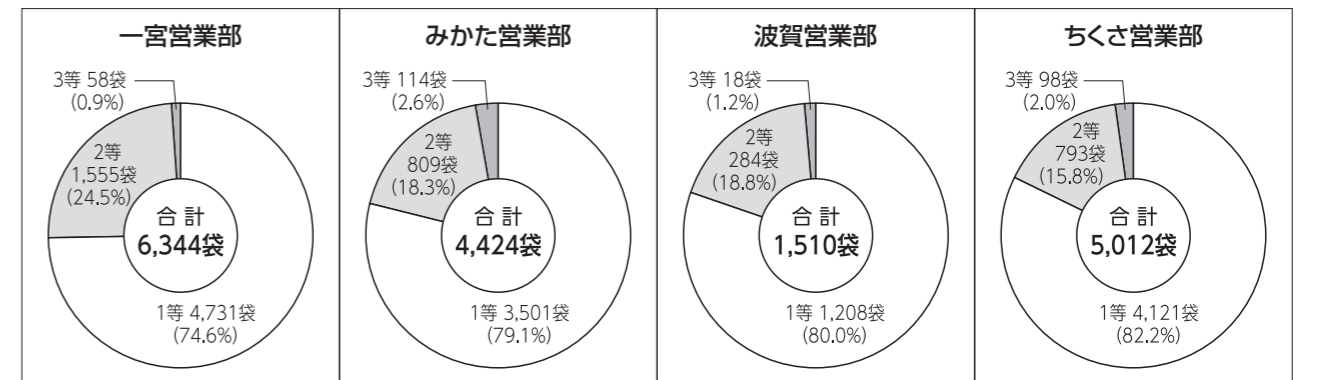
また、堆肥等の有機物や転炉サイ、ケイカル資材の投入、深耕を行うなど異常気象に強い稲作づくりが重要です。この他に等級低下の原因としては、カメムシによる斑点米被害、胴割れ米が挙げられます。カメムシの被害は、出穂後防除をしっかりとすることにより軽減できるので時期を逃さないように防除をしましょう。雑草が生い茂っている所はカメムシの巣になりやすいので、畦草刈のタイミングとしては出穂前の8月上旬頃が有効と思われる。時期を逸しないことが重要です。

胴割れ米は刈遅れや、乾燥調製時の過乾燥が原因です。刈遅れが無いように穂が85%熟れた時期に刈取るとともに乾燥調製する時にはこまめに水分をみてください。

**キヌヒカリ** 特にキヌヒカリは高温の影響が等級に反映しやすい品種です。作付け場所や時期を考慮してください。

これから来年度に向けての準備期間になります。JAでは各地の土壌マップを配布しますので参考にしてください。また、土にあった資材の投入についての説明を各営業部で実施しますので、是非参加してください。土壌改良資材をしっかりと投入し、土づくりを行い、高温に負けない稲づくりを行いましょう。

### 各営業部 米検査結果 (10月末現在)



裏面はさやえんどうを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.271 平成25年11月13日発行